

# 世代を超えた社会貢献を考える

世代を超えた関係づくりについて考える「創年と若者の交流の集い」が3月16日、千葉県松戸市に完成したばかりの生涯学習社会貢献センターで開催された。初めてのイベントとなる集いに参加したのは200人。会場となったセンター最上階の17階の集会場からは松戸市街が見渡せ、その眺望には、参加者から感嘆の声が聞かれた。



初めてとなるイベントに200人が集まった

集いでは  
基調提言  
「なぜ創年  
なのか」に  
ついて開説  
死新聞の北  
村節子主任  
研究員と創  
年運動を進  
める聖徳大  
学生生涯学  
習研究所長  
の対談が  
行われた。  
続くシンポジウムでは、  
「創年のたまり場」「若  
者の主張」「創年の市民  
大学の経営と展望」が生  
涯現役推進協議会の東瀧  
邦次代表、同学生生の  
佐々木敦美さんらによっ  
て論議された。最後、  
同学生生(若者)とまじ  
と生涯学習大学卒業生  
(創年)による、互さ  
こいつが披露された。会場  
を沸かせた。

## 創年と若者の交流の集い

千葉県松戸市で

「創年」のたまり場「若者の主張」  
「創年の市民大学の経営と展望」  
生涯現役推進協議会の東瀧邦次代表、  
同学生生の佐々木敦美さんらによる  
対談が行われた。

「私はもういよいよ」ではなく、「社会を築いていく」が創年的なマインドである。創年とは、まさに自分と生活を見直し、リセットするいいチャンスをもっている。訴えたい。

しかし、シンポジウムの1人、同学生生(若者)の金子美奈子さんは「努力してもできない」「もやもや」という。この「もやもや」と「や」な世」という疑問を本書で多々問う空間として「創年のたまり場」が注目されていると説明する。

同学生生(若者)とまじと生涯学習大学卒業生(創年)による、互さこいつが披露された。会場を沸かせた。

「創年」のたまり場「若者の主張」  
「創年の市民大学の経営と展望」  
生涯現役推進協議会の東瀧邦次代表、  
同学生生の佐々木敦美さんらによる  
対談が行われた。

「創年」のたまり場「若者の主張」  
「創年の市民大学の経営と展望」  
生涯現役推進協議会の東瀧邦次代表、  
同学生生の佐々木敦美さんらによる  
対談が行われた。

## 地域主義とまじづくり

樹林地や竹やぶ田のラフスタイルを大々たるためなど、自然と人が共生する空間を「まじづくり」と呼ぶ。それは、また、その影響は子供たちにも現れており、ホタルやメダカやドジョウを見たことがないという子供も珍しくなっている。

「まじづくり」は、自然と人が共生する空間を「まじづくり」と呼ぶ。それは、また、その影響は子供たちにも現れており、ホタルやメダカやドジョウを見たことがないという子供も珍しくなっている。

「まじづくり」は、自然と人が共生する空間を「まじづくり」と呼ぶ。それは、また、その影響は子供たちにも現れており、ホタルやメダカやドジョウを見たことがないという子供も珍しくなっている。

「まじづくり」は、自然と人が共生する空間を「まじづくり」と呼ぶ。それは、また、その影響は子供たちにも現れており、ホタルやメダカやドジョウを見たことがないという子供も珍しくなっている。



子供たちの環境学習の場として里山体験が見直されている

「まじづくり」は、自然と人が共生する空間を「まじづくり」と呼ぶ。それは、また、その影響は子供たちにも現れており、ホタルやメダカやドジョウを見たことがないという子供も珍しくなっている。

山である。その新しい里山を企業がつくる動きが最近目立っている。例えば、トヨタ自動車がかつ知見豊田市内に整備している「トヨタの森」。本田技研工業が栃木県茂木町に建設した「ハローウッズの森」はよく知られている。広がるのを確認することかできた。それはまさに、日本の原風景そのものであった。場所を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう

## 広がる“里山学習”の施設

まずは価値を理解することから

「水」「燃料」「食」とされるが、この公園は3要素を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう

「水」「燃料」「食」とされるが、この公園は3要素を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう

「水」「燃料」「食」とされるが、この公園は3要素を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう

「水」「燃料」「食」とされるが、この公園は3要素を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう

「水」「燃料」「食」とされるが、この公園は3要素を有機的に結びつけた総合的な学習施設といえよう。このよう